下

秋の日三哥仙

1110769824

秋の日三歌仙

山かゝしの横ゝさゝ山茶花野とゝしゝ
風雅のさひを書されたりしかはれ
すゝさゝハなみ雲のさきゝるほゝかゝる佳
景言外にあまり雅望極中に共ゝ名を婦ら
むみゝさとゝやうに夕霧野ひち笠袖笠
こあさりまひたる雨ゆとりあれハほゝれ
き秋の日の三歌とも題さへきこゝや

繼海魯隠

文化五年辰秋

名ゝしゝや簑むしも嘯歌も寄る　士朗
流の一座にけるゝ初ゝ　一草
蔚もせぬゝしの砂に生出て　岳輅
人のおしゝる枝の末をおる　朗
此筋ゝ名籠も遠入ぬ家斗　草
朝日を浪て　みせる　湖　輅

ウ
何そしさは當托ハ我の上
ちまこ我神の所もそらハ
諸めさて我さん付ふる殿ハ
風種も此さん河條のかく雨ら
我をみより雲数の月の寒しき
横の行かりは我ろ此前 愛
ちい神をちらしいふる隣の子
戸口ハ富士の見ゆる 朝風
ほとゝきハ此ゝ嘯ハ不ゝ
世ゝ我をしろや 今しの家
筑士ゝ笠着て食を 黄ちゝら

朗 子 悠 朗 子 悠 朗 子 悠 朗 子

ニヲ
我もかなり 立る夷の南方ゝ
ハ重雲の鏡のひとりの雲を消て
美やほゝしを二日又ハ打
山寺の門を出ふ 丹波口
子供ちゝらをため 法 横
来る夷を帰も 待ゝ
ゝ我ゝ我したき ゝさ
むし 誰ゝ親をとめる次序
面ゝ行ゝ 望ゝ
枝ほゝ風のかさ 清く
底平 望む月のちいさ

悠 朗 子 悠 朗 子 悠 朗 子 悠 朗

[illegible]の[illegible]にあれて[illegible]いとく　学
[illegible]の[illegible]の栗に喰あく　性
蒲[illegible]ほり[illegible]へてうそ[illegible]く　朗
[illegible]を又[illegible]　学
[illegible]の[illegible]晴る[illegible]　性
[illegible]に植る[illegible]　朗
[illegible]山[illegible]　学
七十七[illegible]　性

吹風の日[illegible]にありて秋の風　一学
[illegible]の[illegible]の月　士朗
[illegible]を下に押つけて　岳軾
[illegible]ハせ[illegible]にやる　学
傘[illegible]の人[illegible]　朗
[illegible]にあるうしに一籔　軾

豪しるも漁しるも寄し袋杙
能やくの七尾の橋もよひする
しらさしとさるも久しき蜂の松
綿子君をむすまつ九日の当
何よりも鼻にかけゝる猿田彦
曉揃ひの浅みやりして
ありくしと虹うちわたす在明に
踊の帰ハ名残惜そひすはき
の水を数まくのみそれそ
積荷をう東の旅人の影も月
ちり花の摩耶うつる根の空く

芝 朗 特 芝 朗 特 朗 芝 特 朗

世の中ハ一文の茸をかくこそ　特
いかに裏ハあれとも此の表　芝
うかたの屋敷子寝られ都より　雄
性第ともいさて坊子のついゆ　芝
若かせみふれて洞あくなり　雄
蝋燭のあかりくらしく行あかる　芝
坊子ふるまう酒し初吉　雄
京花ハ遠益んでも子思ひ浅　芝
山伏ひろうこなきたつき　雄
つみ枝ぬらし子春なる絵　芝
さいしも霜を焚きとる　雄

芒ちる音もなきまきまきり　芝

藤をおそはる髪うる　雄

ひらりくよそ彼の[illegible]る　ゝ

鼻ところゆき朽の山風　芝

よしや世を蛇嫌実子[illegible]て　雄

大姐を座にさし　芝

花咲て社のまへ[illegible]り　ゝ

静か尾をふる永き日の新　雄

すゝしさに置て月さへ入る　備史

入ること寐ぞしさ打諸　士朗

花ふりる風の読朧らして　一草

朽ちそらするきけひんなき　岳輅

打ついる家のむし見由ちまり　朗

わ美吹の数の消え涼と逸　史

ウ
萩がもとに揺らせばなれ女郎花
持てる人を見まほしかる
月をいかゞしい夏のころ絶て
香の吹来と声を覚るつゝ
直ぐれハ中秋樹のやうさき
何に進ゐれすおそれ山奥
新朝ま人情をしきよ
小雨ふる雅に傘秋に向く
夕雲の行度屋尾花宿て
池へ瀉来る水のちりし
花に談じとかて膝の出なし

辻

執 三 文 朗 芽 錦 朗 史 悠 雪 史

二十
頭中より戸の奥へのとかしらく
隅なるもの七つあり八眼に病て
役をも辛め留売に来き
青富に見をやら作め町の京
亟しく晋の名をうかる
献取ひ錦十ひし千日のをめ
若まくしふる笑みもしく
人しら流木の椅子かうして
又あれ保る吹くをこらき
千夜面に菊のかをりまかぬなる
秋のふうけき意のふうれ吹

草
可

芝 弓 郎 子 錦 朗 史 泊 青 史 子

[illegible]を月にやしかれ　青
石[illegible]水[illegible]　朗
[illegible]　学
[illegible]　坂本　史
[illegible]　軸
[illegible]　学
山[illegible]花の[illegible]　朗
[illegible]　五雄

[illegible]の[illegible]尾[illegible]
[illegible]の人[illegible]
花[illegible]
[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]清し

[illegible]長[illegible]述

入勺名録

枇杷の實

[illegible]

今[illegible]年[illegible]名古屋に[illegible]
[illegible]時批把園の翁[illegible]張森[illegible]と画
[illegible]
人も[illegible]の[illegible]の一巻[illegible]
[illegible]集[illegible]
京に[illegible]
[illegible]
同し[illegible]一人
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一言[illegible]
批把の実と号[illegible]
風流と永く[illegible]

菊[illegible]良其成

[illegible]

庵足の岳輅一字に六年跡
宮の更成て〻盛青亭に集
子ていさよひの月を見るまゝ
弓八おふきすのあれらひかる

露霜を見ても浮るゝ月の客　士朗
尾花に続きあれてたのしき　其成
蜻蛉も此のあるしと如是々の　盛青
篁を走かゝる汗一寸に奥　大阜
船底に立て出す紙暮法みゝく　岳輅
ウ
年礼をしみゝ人の出て来る　少汝
西の雲ふゝ雲もつる此すて　桂五
蓋の志ゝ延摘とはむもり　墨山
酔さめの男斗八露てゝとゝを　松凡
秋の法窓の多き朴嘆　白圖

意ふさハ仁ゝ成とよ新のまつ　天老
宮居紙色本深る秋風　狭六
後里素る小五の前ハをちかな　碓淵
屋種を清かむ一斤ハ月　方明
老をうる俗ハ秋に泪かけ　文成
かゝし　開して笑ふ血刀　士朗
世の中に咲出ぬ花をなきものを　卧夾
湯関の真とともん山ふし　岱青
川の淵の　聲る折く　渡之里　大阜
五位ともなりて　景る　志る　岳格
小社の告に　氣のなきまを　其女

虫歯ハ　なくるほのかハ　西き　桂五
ぬくしあき中を　行理に　隔れ　垂山
あをハ　絵　森ハ　見せる　蓑笠　松兄
名ハ　月の　葉の　鳴くと　立さき　白圖
ちや　衰れ　なる　白　ハ　なく　天老
鐘さくさえて　ハ　なき　宇治の里　方明
白　ハ　なかりハ　なまる　末　厚　碓剛
月　ハ　ふ　の　厨　といふ　せん　狭六
むし　ハ　ふ　ハ　ふ　去　蓋　卧夾
渡　ハ　ハ　小　種の　酒の　ちる　年　士朗
車　も　ゆ　ハ　柚　ハ　ハ　ハ　其成

[illegible]　岱青
[illegible]　大享
[illegible]　紀風
[illegible]　女汝

松兄亭に招られて

名月や[illegible]　双鳥
[illegible]　士朗
[illegible]　岱青
[illegible]　双南

[illegible]　岳終
[illegible]　与汝
ウ 押[illegible]　甘歳
[illegible]　天光
[illegible]　桂五
[illegible]　松兄
[illegible]　士朗
[illegible]　青
[illegible]　南
[illegible]　軒
[illegible]　汝

大遇ふ事のを名ぞうせさきく　成
かくすれば飯の山路に山さくら　光
まして夕されはさきき　菅汁　五

おのしゝ世波草にあつまりて
人古き人表あり雨の月　大阜
きみ山の風とむまる荻花　少波
稗志しぬ土手の柳に秋ふて　士朗
見えへる石に見ゆる冥の口　岱意
石鉄切葉の毎へも聖へる　双南
哉ぐとして時かえれし　其宋

摩橋を天満神の名に得たり
工夫の付て要義あり　波
縦小神人の松も行されて　阜
世の中ゝ麦外出るに嫁にす　青
法治四五人武者ふりみよ　紫
名月をたゞみ行と云ちして　南
雲にそしたく　霸ゝんの者　岳格
ゝんなりの又度すてもまにおれ　波
茶の落こそ花のさく　阜
小夏日の山おもしろ鉢あけ　青
屋松ふき聖ゝ　冢司より　南
　　格

東みわりて
推影高をなして

雪早し三よとを凡み横成ハ　士朗
湖寒く目無出ケ多り　其成
松立るつゝさゝ影や紫しん　月居
笠ゆさ何れ人も六人　小華
惟ゆ所なつゝ遠るまつ月れ　花緑
乱れて蓑み積けアル事ハ　朗
ウ利もなれ小田切居を変ゑ　宋
新起あらく舞鏡ハ町　居
かきよるおもれの繁の色ハ変て　文左

暦禮の日も撰れハまくなき　縣
仮橋の紅光ふさくむしろ張　花
師走のゆみと夜の後来る　成
人ましハ亡き説ゆるきのふ成　定雅
神ならおとの年ハ続き　左
影き御月の美ほど立出て　朗
冬居と遊ら紛紛ハ多り　花
子供らか何やら飄ふ家ハ語　居
夫ハ服とむとしふ打ぬし　朗
ニヨあらしむる蚕ハ時の行れぬる　緑
家みうちてハそうさき演風　居

吸りのうち地住きく多くなり　宋
蘭雪をこうばかりの日　諸縣
児医者の門に人戒の松ふりて　尤
まうさしむけくから白をふむ　雅
小田のたよりも三日四日遠き　花
蒼麦みかりみの西き大根　尤
房はうる寺地が垣を抑ゆし　朗

古き反古の中に

花を付て菊知書ふ西ふ風和　岳輅
初秋さくらう月わしみゆく　一草

けれうと書う時出ぬ都されて　士朗
岩ありしに浜けるむ志しに　方明
松にあれて雲の注意をよく覚　草池
ひとりの吟ふ山の百姓　士朗
ウ稲もあるに草鞋干てられる　茅
雨しも出うさうに蕪みし春　池
初花をおりひかけあき空をを　明
小峰の蕪にくれる二味せん　茅
あゆうくや稀しかせくる廿の雨　朗
二日酔せる清泉みし侍　明
ひせくとそるも姉しき石が山　池

上方にてかゝる様かさく　朗
田に畑にあらぬ多し新田　芋
木屋村かゝる山伏の門　池
人影に身を思ひたれとせる　明
さゝろなくさる鹿あり　草
三ヲ　舟景の松に烟の立あり　朗
雲に消ゆく志う鷺の聲　明
信理の芋の種に雇ひて　池
日に一度ゆく芋の種のたれ　朗
頃穢に見るも寂しき明月　芋
詠詩の興さしみ上るに思ふ　池

水嶋氏々それの洗えさく　明
おしんに羽織着ぬ多くそれ　芋
初恵の初に多く世と人の為に　朗
雲に鑿さくさゝろう浮くし　草
三日月の影に寒屋の軒ちく　池
引板のうしろへ急ぎひ迷　洛
ナヲ　きゝんよし捨られしまの衰え　芋
とりしひえらき蓋しみる　洛
菜俵を名まはとしもかさつきて　其成
人のほしかう　靈祠ひ祥る　朗

急角して老束ハ花の志不可見　格
霞ハ王たる門の中ニ寄　成

推敲車ハ急ハ行ニ移ク
梅押きの小ハ枝ハ寄かり重　士朗
推敲車ハ行ニ移ク
走井や水たゝけハ底清し　花縣
菊ハさく都の花を座の友　玉屑

都人足ハいつゝ秋風寒心しも
此亭ハ推敲ハかくいへ寄り
花ゆり人ニ見れ見上寄ち　羅城
推も敲も悦人の心と風狂して
流れて叩石ハ奥ハ飄ゝ雷　瓜坊
此亭ハ敲けハ先ニ人ありたを
無夜号者なりなる
流ハきて清きニ流れ奥ハ水　青橘
所ハ門をたゝくの蓋ありと
示し後へ流もいと号し
門あさ宿ハ同池流ハかれ　洪道

而ハ都三条通り東ヶ咲ヶ西ヶ
とゝく
こまるこの名を層かゝたるくえ　十二七　大江光
短おやたゝかね先ニ名を明る　十三　嘯山
乾坤ヶ丘の風土城とし見て
一字の推敲をいつさくしせよ
きろ多の樹や茂る無明り　十四　祥禾
さそや屋ニ雪久のつ是ヶ朝まさき　閑空
推敲のんとゝのせよと気稽ゝく
夏木立いつ是ヶ梅とゝ社ヶ梅　十六　卡六

曲しなれハ蛍雪ヶ身ハ夕ちゝ　一子
推敲の申ふく
飛むしと水鶏時秋の人ハ行　斗入
推ハ生舟鼓ハ水鶏ゆゑしハ其臧
坂性み月箕持ちかゝ時まゝる　十六　不二庵
あるし悦ハ笛ヶと四くハ客ヶ名
和と善ふ氣も推敲ヶ事ハ欲
仲るちれハ
むつかしと花梅ヶの明まゝし　田禾
納豆汁ヶ稼のまつ風ヶふも吹　ヒ二　雄渕

推敲のふる所は
青もせぬ桟面の影や和の雪　斗雪
人の家のうらかゝる里夷の山　岳格
手打集てさびしさ移る芒かな　卓池

枇杷の実追加發句

春

歳且　何度もまくて夾ろあしたれ　士朗（えいり）
新しき此洲しさや庵の夾　樗堂（イヨ）
元日もうつや風の姿ならふ　太節（エヒ）
ちゝゆゑひらふ生弱の初りれ　古光（河内）
嫁ゝ君行頻ハ留ゝかくれなり　起蝶（ハリヤ）
茶菓　留まて這入しるひのつゝ菓れ　食水（猿蓋）
君ゝこめよくりまゝちゝ茶菓れ　其瓏（十六）

ひハのみ

梅

[illegible]人[illegible]きし梅より[illegible]き家
梅の[illegible]麦[illegible]つしき用[illegible]
大[illegible]絵[illegible]かゝ[illegible]姿や梅[illegible]
梅[illegible]き[illegible]も[illegible]や隣[illegible]
生[illegible]のいろは[illegible]り梅の花
正月[illegible]あるし梅[illegible]
梅の花一ツ[illegible]付ていそかしや
小[illegible]進分梅も咲[illegible]り
梅[illegible]の[illegible]も[illegible]や[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]一きハ付し梅[illegible]
[illegible]日記の[illegible]梅の花

長翠
鶯居
雄淵
士由
馬年
有斐
漫々
康古
周泰
羽黄
九朴

[illegible]くりと[illegible]よ[illegible]の梅[illegible]
[illegible]て一倍梅[illegible]
[illegible]ハ[illegible]梅の[illegible]
傘も用かゝしさや梅[illegible]
[illegible]
家[illegible]梅[illegible]
[illegible]や梅の[illegible]
[illegible]ハ梅[illegible]
梅咲ハ梅[illegible]の日和[illegible]
[illegible]の[illegible]の梅
[illegible]梅[illegible]

梅塢
国村
土虫
芽丸
守三
午當
柳絮
風兮
大蕪
芋史
右稲

柳

さかへられ戸城明さして梅の花
星ハしく梅うち白ふ木の名より
梅白し戸の明立の鈴かなる
二日から雨よむ梅のあるしお
眠ふとも鈴ハ梅なり馬のうく
明ゝ鈴や鶯とんしも是を柳
やゝ春も志なり柳の志なれなり
山ゑんそ水ゑんそく柳 静なり
見てゝさのりと末もおさ柳お
時出して柳 知らせ庭もゝ見
居ほをいへる木から柳 ゑれ

貫明（バリ）
菜潭（イタミ）
荻六（ヒシコ）
車月（チカコ）
艸堂（日面）
梅價
芹水
瑞馬（十三）
蜂友
御庵（サカ）
文勺（ハリ）

鶯

さて横ゝ煙のかゝむ柳ゝ那
結き箕の庭も結ばん柳お
此比のあちこち者こさ柳ゝ角
力なく雲のはなるし柳なる
多長し柳のそゝ我おしより
夕晴のかゝぬ雲ゝ柳かゝ
あらうつ里ゝてハ鶯晴しなり
鶯のんとけこゝくり里お
鶯やし小村の夜をひとり持
うくひものよ日月日こそ生れ速
鶯ゝ橋さてしも居ぶせを

車滴（エ）
詠物（ハ）
常躬（ムサシ）
松江（ミト）
亀年（テハ）
梅座（カ）
雀（ミノ）
圃古（ヒ）
睨舟（ヒ）
梅夫（エ）
車両

黄鳥や翁ひらけハ拝ミ入る　規外
黄鳥の声夜ゟ明かけん　素仁
うぐひすや先とまりける新森に　芙尤
鶯の来て住宅ともならぬ事　酒童
黄鳥も一声にゆきや長坂　凌雲
鶯の声ものがたり林の奥　其雪
うぐひすの声替りして又森に　趣羊
鶯や雲路すむ藪の中　一峯
黄鳥や虫食ふ声とみゆ栽　大峨

雉子

雉子元山や片目わろくて雉子の声　祝咲

雲雀

雲雀啼ひゞく谷戸の小橋もとまりかな　岸洛
ありがたや春も日の暮雲雀かな　釣翁
東雲や人の声する雲雀ひゞく　吟雄

雀の子

雀の子すきすれちがふ雀の子　遊史

燕の子

燕の子舞ひつて来て遊ぶ小田かな　玉扇
春の雁下旅ゝても見ゆる　心非
別ともを立ざる程の川べり　推平
雁の声帰る日ハ雁が音　松兄
名残を惜しと聞くと小田の中　試李
帰る小田の雁も日ハ松　季成
残されて雁の秋を忘ぬ下り　雪齢

白魚

白魚ハ朝のたくひ影かの　玉光

蛤　燕　蛙　蝶

志ら真や揚さてもなかれいろ
蛤とり和んだなし茅枕
冥来る事や柳のとりを見
遠のいさせる事へ婦さこ山
鳴しこる外や穴井のゆふ蛙
世ちり分里これハ蛙も真の為
山の陽は花こえ初ら啼し蛙
初もたけよあいつ付てふ蛙
庭さぬりしてこそ世ぬ蝶の色
青海に程むりまけさう茅ぬ蝶
横ぬ意　祢この郵味ら并月ハ為明て

ヒロ　梅路
ヒコ　岫丸
ムサシ　国村
ユト　幸雄
イツミ　桂蘭
ヨシ　菓彦
カヽ　楚実
ヨシ　廣石
アキ　篤光
アハ　壮葛
ナカキ　其映

初鮮　初鮮の日新多しや水みくく
余亀　田の水に家ハうつ里て夫をし
丁野のまゝ立ぬる余亀ら加角
夷の雪　湖へ吹戻しかり春の雪
枯ちむしの木ちり春の雪
春初水　あり屋ら居りぬ都の春の水
霞　かとまれて春だてぬ年ハあかりかり
見ゑの雨ちくたるかをしみる雨
春水の雑くうすむ塩程外
陸ちりて寺と見えよふかをしみ
かとむ日や宮治のかの河見へ来し

イタ　青河
越ヨ　及車
イタ　笠外
アハ　野里
美キ　祥禾
ユト　一阿
弘ヨ　玉之
イセ　井里
カヽ　岡来
石ハ　秋里
佐中　晋和

物そ　うけろふの寝と志るや思清水　茉因
春雨　内屋ゝ夏学かゝし夫　みゝ雨　三千歳
春雨や　風のふえしかゝり母　帯梅
世間さの底ゝ見ゆり　春雨　志ゝ女
寺ゝ見る大工も来ゝり　春雨　其程
春日　小ゝ清も推ふ手ゝての春日　芝風
春月　春本抵ゝ人の中より　春雨　黄平
うゝくと山に入ゆり　春雨　呉来
春風　春雨かゝ積ハ中ゝ日みゝ雨を　瓜坊
馬のよる野ゝ成ゆりゝ春の風　呉明
いつとなく日新ゝられて春の風　一予

春風や　異雅清水に見えゝしく　方明
さハうしき中を出ぬけて春の風　鞍風
山田や人をゝ日も春雨かゝ　裸風
浪母とさして春の風ハ清の風　白二
春山　春の山世ゝ雨ハ春ゝ雨ゝ　梅仙
春雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ　五万人
茅花の雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ　羽閣
若茅　口ゝ茅やこゝろも三陽の温度ゝ　素檗
口ゝ茅の子落さゝて並や世者の子　方由
茅茅をゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ　天外
穂　ゝりひなき時や穂の落ゝ穂　頑歌

おりしらやつかく様つくしら　ヒハ　伯南
菜の花　なの花に蜂狂ふ山家かな　エト　成美
豆山のうちハ菜のむにかしきに　、輕舟
菜の花に海まくなり白ひかり　エト　我雪
初花　鍛好の悟る青ひらしろさそらに　、笠研
嫁されし幣も禁りそ初さくら　、蒼々
初花やひけ目の狂くんりち　イタ　百敏
云ふとぬ云葉とそくよそ川様　エト　萬外
松風の青みきそり初さくら　、喪悼
初花にかくさを須戸の浮くりし　二の手
花　旅人に驚かされてを見う邪　三カ　卓池

蛤も花に口あゝ汀の支　ヒ　非有
菽来るも花の化粧にいらし山　ヒ　平舟
履おそ草の花を和ひかね　ヒ　呂川
花は雪なくれて沖れ白うけふ　ヒ　宰芝
花の枕ひらつに蜀の末れ乃ち　ヒ　子老
笠ひしやおなしかうに蜀の皮　ヒ　扇風
辛坊や神代にいりてを分り　ヒ　芝度
ちふ花や一聲かけし鳥の何　ヒ　五英
日れ鳥に花の時いつ深し　ヒ　可盈
小野にハ草こぬものよむ山空　ヒ　蕙布
花のちり雲や魚日様なる　ヒ　交宗

櫻

花ちるや鐘につきてはつかこの村　[illegible]支
ちる里来ると桂わりに花の源氏[illegible]　[illegible]金
むかしを誘て花をそらぬ雪の[illegible]　[illegible]翁
身にしむのあくまひこえみね　千丈
茸けて[illegible]　乙慶
[illegible]かくや何所の花さそ[illegible]　花の女
さくらや花散まり人に都の雨　其考
入れのふるにあらし[illegible]人　其杉
[illegible]のもらしれうち[illegible]桜　千影
夕陽のつゝや梅のさくらか中　好無
桃花[illegible]の[illegible]日[illegible]　魏道

わかの浦も大かたはちるかね山桜　黄山
腰のうへきさほと八日なるは桜かな　古曉
むつかしや浅黄桜もちるほどに　宇鷹結
山寺やあけの鐘には松さくら　馬谷
[illegible]のちりかむ桜呼子鳥　五芳
[illegible]ちる森八朔の桜かな　羅六

桃の花

松風にまぎれて桃の花　音紫
ちらちらと桃ちる昔かな　箕や

菫

露の梅よ くらつて菫をかふ　古猿
雨の菫摘まるるまで付はうせ　笠仙

梨の花

花ちりの花余りとしらぬ[illegible]　未六

真ゆかり筆にこぼれてなし此筆
筆師し只投出ぬや筆ぬるか
かそれけも呼つの海士のつゝあり
筆代や筆の書雲武押鳴る
たるおの出るる原も月和ゝ那
ゆきを筆とおりふる几巾
今人の日社くすを晴き雛迄
社出る子の筆に笑ふや雛の筆
糸筆ゆもかるくり返し筆の餅
歌まく這入汐干の磯ゆかれ
永日永き日のものよ夜と休み新

三千雄　霞岫　素柳　季明　布蘭　南井　南丘　桑谷　杜氏　空河　星備

筆花餅
汐干
永日

かんて居るや京の君なるの景遠さ
わ美の志ゝ志ずり氣叢が家
真のいろ雨ちらる社人ゆ来る
来ん山ゆ海ゆる年のわ方が
雨とゆくく日を全なり年の海

石海　晩彩　土光　屋馬　百池

わ美
雜

夏

袷

夕暮に去河てめつらしき川狩　雪雄

袷つけて汲まうろさえや更衣　祇杖

鍛霍まらんて鐘ま出る夏衣　孤辞

御塩少々と蝸牛の笑ひや水筒　三美

杜丹こなからしとたまにほゝんた　如毀

ちかてば去りて杜丹の花果か　盧白

芥子　湯女の幼の帰とも古て芥子花　千崖

柄なるに蔵かつ芹子のたうりく
記外の事なれハこそ芹子はられ
杜若 あまたとらふまのくせやかきつたる
卯の花 夜寒し所の花なんを咲しよ申
菊花 まみんのものくしてもいろ素
半菊や菊葉かくれは箇の上
小むしろの中や菊葉に日みへぬ
雪卯りつく花をるいろ葉かく船
雪卯打ハ浮世の人か朝菊葉
木下雪 下雪に座いたるや舟のそ
木下雪鞍ハうしきまかく船

三史 鱶守 茶幹 倣史 戌淩 丘門 市柱 布雪 其篤 忍瑛 鳥羽

青柄 青柄や歯のうつしき兎とも
芋葉 芋葉ハ見るやしかれそこハうと
青田 青田うる屋や山田の町うし川
鶯来 明ゆはき来や門口に蓮乃し者
鶯来や むしろ田のけかるもかき
杜鵑のまかきつく明ゆはし
鶯来の月落つきぬ山ハ雪
みかれや月のしきも夜度の山
鶯来も去るや渉井ハ明く蓮
清水 ひよかしと笑ひりする清水かき
西行も柳も去るぬ清水かく船

車丸 麦車 希謙 預笠 圭角 百非 孤蟾 吟鶯 笠雛 久成 麻呼

初鰹大名の[illegible]や 初[illegible] 貫天

河豚 [illegible] 遊人

[illegible] 井古

[illegible] 女梅

初 [illegible] 竹和

[illegible] 日人

[illegible] 中庭や二本の[illegible] 書求

[illegible] 杜蓼

[illegible] 小舟の[illegible] 若翁

[illegible] 月底

[illegible] 巴圭

[illegible] 其雄

[illegible] 素濤

[illegible] 竺下

[illegible] 同笑

[illegible] 泥中

[illegible] 文角

[illegible] 一茶

[illegible] 素巣

[illegible] 月丸

[illegible] 鐵翁

[illegible] 方居

おひろふ思ふ家居より　文山
かんこを遠ざけて山の神　芳子
よしきりよしきりの声ふるふや池の橋　仁十
杉　一風や杉船にまでのらぬは　六喜
杉のかけ人子かゝる月の又　万紀
川下や杉舟渡りの轍は　應汀
杉織ほと船の宮の新らしさ　含涼
鳥居の涼みてもすゞしき宮居　鳥頂
蛍　菜むしの蛍よりも雨の蛍　汝笠
杉の葉音杉縁ましかりて　芸城
蛍　のちよの屋の宮の名わ八　几丈

鹿の子ふさりしりてふ鹿の声　杉色
さつき鏡る柿をさらば声かゝる　五来
蝶　けふろのむように門の陽　棋日
桜　笹ちりまけとぬうちの白露　見れ
若葉　いろの若葉こやまれの紀の里　みさを
青蘿日竹植る日のまひるかな　詩
竹植てそいふは日のあれ　班章
紫陽花あさひのほとりを擂ゆなふ　桂丸
石合向ひ夜の石合のむ　学丸
梅子　梅のゝ河のしけのひ　蒿蓬
梅のひよし陽や舒みち　藍外

あてしなく植しこそ花の人の実 山蓑
押つけて大きくなりけり三粒も 汝川
梅の香の春より先に咲にけり 景居
ひるがほ露や朝日のかげの花 綾之
合歓
さわやかな庵の外しの夜の宿 宗古
晴くもり梅の真砂の夕月川 鉄水
あやめや声もちの法門に 馬言
入梅
梅もひとや切れ入梅の雨 李天
暑
涼しあつさかな昼にならず 西坡
五月雨や暑のあつさ縁の下 子得
あつさ日の思ひもつかぬ蝶かな 早風

涼
夏葉でもとの景色の深みかな 一森
月中の雨に夜の音のつきぬ 巣北
たけに吹かれて楽し赤松原 旭活
我ものと思ふところに涼しさや 西陵
楽しさは松の上
川涼み何事もなく
涼しさや衣の袖のかの郷 素兮
涼しさや何とても灯に物語れ 雛風
涼しや浜の月 石狩
家の外涼しさ浜の涼し 宗種
橋の名に鳴く一本の涼みかな 桂硝

さく風や皆新穂しなへて穂そよぎ　岸う
新米にて新酒いはふ人川添ふ　月江
まほしさや四方の稲の月の色　五湖
風薫 若の葉の昼や常し風わ轉る　無楽
久の主の葉のたれ涼しさの引都　茂良
帆子 うつしの夜も過しかりの風　馬卞
生垣の栗帷子稲なみかな　士得
夏人 菊の香の男子来る嬬人　米友
蝿 蝿とんや頭もとめひまりく　文兆
蝉 松のうちは蝉山さく蝉の鳴　古磐
松の陰へ入り谷なり蝉の声　尚古

ほとゝぎすや不動しての風わ扇　桂眉
嫁なくやみつも桃枝車は啼　邯堂
千鳥 静さの似たる物も浜辺千鳥のとり　亜渓
この浜辺の月ほの白み千鳥声　長耗
秋の月 名月や雨にまみれて鶴のなく　月倍
雑 夜の松に宵闇雨す時の声あり　青峨
人かりかる夜すがらくも見る君　士行
世の中の常しき夜の月の都　支城
あはれの秋の秋の月　路光
菓子十二れもる月の雲れのし　幻化

秋

初秋はさの枕にくてまめる緒の香　蒼虬

さらし桂の森の紅葉より秋風の錦　木油

家の秋を誇られつゝ冬の幕　扶来

爲れておれともしとも錦の秋　古音

来かゝりて秋はとかくさものゝ句もし　鳳従

楠の秋滝より落る水の秋　桑眠

きつねの杏のほとりも秋の色　会律

ひかのみ

天の川[illegible]川星の[illegible] 護物

七夕[illegible]の[illegible] 宮桐

[illegible]の月[illegible]京[illegible] 喜[illegible]

魂祭[illegible]山の[illegible]川[illegible] 等卓

[illegible] 鼎一

盆月 [illegible]の月 瓜坊

[illegible]の[illegible]のうち 鴻月

[illegible]と[illegible]て[illegible] 翁守

[illegible]月[illegible]の八[illegible] 篁盤

[illegible]や[illegible]つ[illegible]月の[illegible] 木芳

[illegible] 鷗声

[illegible] 梅ら

[illegible]の[illegible]や 山の[illegible] 峰

山[illegible] 探笠

[illegible]や[illegible]暁[illegible] 翁暑

[illegible] 素虫

[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible] 洞舟

[illegible]や[illegible] 紫鶴

[illegible] 其山

[illegible] 稚問

灯[illegible] 芋詠

[illegible]の一[illegible] 雪栽

[illegible]や[illegible]

月

毎出中和の川青岩出たり
月の月中は山中にて月をとる
秋の月詩にひきかして雅夜なる
大きさの人を友なり秋の月
山加の風にもあはれ秋のしく
名月や尾花の早くかしく
都にてみしより月は人にして
勝る古き秋にもかふの月
山にのぼれ名月古く如くなり
まこと山の月にふ月の筆かれ
密造に云ふ世なり名ふの月

○

靜水 ナ
完来 エト
春塚 ハ
笑恪 ハ
不將 カ
井谷 カ
岸外 カ
素月 兵
桐栖 ナ
茶彦 ハ
在里

鳴子

和宮の世にまさるる鳴すなる
虫

相和なるひくや陽のいとく陣
朝は中の秋をつのつれさせ
きかくは村の人にもぬるかきかくは
きかくは鳴をはなれ出る
蛙蛉

こんなくや鳥の鳴のうくらは
鳴

の鈴にあり中とさく鳴の鳴
丁

丁とさく鳴人去ひとも鳴りなる
まつ丁のなりをひくや鳥の鳴
ひきく来る丁にくりるや鳴の月
麻

麻は丁縁をしれなり 和の山

雲鳴 兵
古綾 カ
車行 ヨ
退雲 ヨ
壽芸 ヨ
夢事 ナ
吾雀 ヨ
寥松 ア
綾彦 ナ
加石 ナ
尾全

秋の部

鷹のまなこつらぬきとほすや金山　亀年
風ふくや大きくならぬ山の月　雅瀧
山寺はさびしきものや鐘の声　芝州
新酒や人の業は猶さくら　秋峯
[illegible]や[illegible]て風しきる　玄鶴
一葉
拾ひけしは人の思ひで[illegible]　探集
こゝろ[illegible]月の[illegible]
その月[illegible]て秋の[illegible]　一英
草の[illegible]月[illegible]　呆白
名月や[illegible]　壺芳
待ひと[illegible]十六夜[illegible]の月　翻風

名月中にあらはれて[illegible]の声　元水

十六夜

十六夜[illegible]て月はなき　梢青
十六夜や人[illegible]のはて[illegible]　古江
十六夜の月も[illegible]　雀鳴
[illegible]砧の声　丈丈

砧

[illegible]砧[illegible]一と声　三河人
山路きて[illegible]砧　烏翠
[illegible]て砧の声　北浪
あまの[illegible]　方稀
山寺の門に[illegible]砧の声　里川

荒葉

[illegible]人ぞ[illegible]　一岸

荻柳 行きのあまりもつるを荻柳
木槿 美家の海ひし見よ木槿垣
むむらけさしかは秋の初
あしき咲世に退きて荻木槿
山雲のさうひしの木槿の葉
いちて 月のきむほとに雲のついちて
芒 杉のこてもとみるを女ら芒
をとしをみ見しきて月のほとる
竹菊 丹菊もとるや秋く来のはし
荻 荻の芒こられしほとに咲まなり
芒 夕々秋の橋中てる村をとき

杜若 稲雪 遅夷 年徳 乙雀 栄飛 宮洋 乙人 廣陵 珉文 奇関

ひいの子

毎のよる雲さるめはむきられ
笑ふ者きたり芒の中おもの
山芒鶴の鶴さくあはれなり
一つ雲のたりよつ今にて芒の那
夕々秋のつゝ雲かゝるをとき森
特きひの花鶴なくてはむとき
一おつきたりちりしきとき森
落ち来たり来座の芒に声すきて
むつかしき葉並もなくて芒の
いつ近も陽らぬ毎ふ雲さきて
荻芒 荻芒 荻むきはぬるとゝ那

公明 樋三 九泉 和月 文常 吉樟 文蓋 由之 書藏 長成 大巣

俗の似くなりしろやいまもきき
手を居る焼きしあるやいまもすき
うらんとさわくいまや浦の荻
あさとうて来る人もなし荻の声
白荻や名角とりく咲くらん
曇る日の荻や一きハ月にさゆる
梅嶋 味名手の名なる小さや梅もとき
大才の月おのうちや梅もとき
鶏以 久しとハ何のもなさてんこさか
稲妻 いなつまやむつかしさる龍の甲
稲妻やふいと消る 桃の人

荻 荻 梅嶋 鶏以 稲妻

反阜 一炊店 辞竟 寉 一竟 万寿友 七迪 九琴 忍雷

いなつまにくらまうなる山まかな
稲妻やあしとせよ まつに入
秋風 生宗なる日のうしくを秋の風
梅性をもて蛇性をそ彦ぬ秋の風
梅にとき浦山もてハいさかれ風
雨と四つ日の笠られハあらこのうせ
しんをもさまや初の秋の風
さらしかもしこうちなり秋の風
夜寒 夜やさし秋にもなる鶏すゝ
居の月 笑いさゝ夜ちんしてほの月
栗 星ひとつ雨にいんるまで栗のまる

秋風 夜寒 居の月 栗

相隆 九華 定雅 桂生 眉山 木天 素律 柳左 有美 葵亭 桂羅

砧　かし顔をき作らずとや砧おと　飛竹

茸狩　うみ松や錦織かけたる稲の枝　鼓修

栗　おちぐりや鹿の跡ある谷計り　若長

菊　菊も人もかりの中なる山吹　徐英

　赤き葉は名所もなき赤き紅葉　李老

　会ぬるてむ　菊のかほり　雙雄

　一かさてことさら庭の菊の露　可貞

蔦　隣りの茶の座敷に庭の蔦　薫紘

　言せずようて流れ水の蔦　太乙

冬菜　菜さへ中の秋つもるよりなお菜　孤諺

　菜も見て朝夕見つゝ行く　魯語

　手付みちたち真たる畑の果　紫梅

秋の暮　秋の暮や淋しさあはれ目ざめ　窈ゝ

秋の山　冥くちる梢の先をり夜さみし山　隣二

　郷の山ひとつれなき月の夕　車来

秋の記　秋の紀行浅からぬ秋の紀　正雄

　秋の夜中あはれさ心あり　鐘迹

行秋　行秋の末に一筋みえけり　冥嵓

　行秋の残りてあるや秋の紅葉　都友

　咲く秋に残るも何と言う　文頂

　行秋や何とまるや舟つなぐ　ゝ東

雑　西風の吹ぬ日は海のさびしさ　井眉

秋ふけてさし籠のかよふ夜　松斎
秋なれし虫の吟ぬけだこの玉　五鋸
月まつや秋の隣さ蓋の月　砂童

冬

時雨　雨にまて雲むらや秋の初しくれ　月居
雲の小島ほんもせと行しくれ　羅城
思ひ寄志くさくもしくれ今り　士明
初しくれ雨のやうとも思ひ出し　[illegible]人
灯ともせとすくさしくるに無れ　[illegible]
小春　初穂く小春しきる在所うれ　[illegible]雪
簑ぬけハやあれも当き小春かな　[illegible]久

中山寺 一万柄 其成 百九
月雄 昌高 日野 雪居 多賀 ちかの扇 ちかの斗丈 文博 土佐 紙枝 丞六 古豊

山茶花
さゝん花のぬくゝ[illegible]て入日[illegible]　路宅
おちぬれや山茶花白ひくる　九歌

枯柳
さしぬしのつくく立り枯柳　石寸

落葉
ふとゆきゝん[illegible]さよ落葉を[illegible]　蕉兮
[illegible]かれハ[illegible]ことき[illegible]　貞[illegible]
落葉し[illegible]の[illegible]て　芙[illegible]
[illegible]入[illegible]木の[illegible]　茂[illegible]
[illegible]のよ[illegible]木のハ　[illegible]女
よ[illegible]て[illegible]　杉月

枯尾花
[illegible]木の[illegible]人の[illegible]　佛二
[illegible]一[illegible]や枯尾[illegible]　鳳や

枯芦
枯芦の底の[illegible]て[illegible]　[illegible]
[illegible]芦の[illegible]の[illegible]　壷江

風
風の[illegible]みゝ[illegible]　梅洞
[illegible]しや[illegible]のよつ[illegible]け　奇峰
木枯や[illegible]けゝすき[illegible]の[illegible]　文嵐
[illegible]しや[illegible]切[illegible]月の[illegible]　[illegible]く
目くゝ[illegible]こ[illegible]しの[illegible]　文月

冬木立
よきこ[illegible]の[illegible]　[illegible]之
[illegible]さゝんの[illegible]　[illegible]茂

雲
[illegible]へ[illegible]て[illegible]の[illegible]　一草
雲の月一[illegible]や[illegible]つ[illegible]　釆紀

氷

雪

[illegible]

芳之　其沖　玄蛙　[illegible]　一[illegible]　[illegible]　[illegible]　奥心　釜来　[illegible]　[illegible]山

寒月

炭

槽

[illegible]

白時　采丸　素童　来車　霍棲　素次　[illegible]　[illegible]丸　[illegible]　[illegible]丸　亀仙

年志　葵堂
行平　脫負
行走　子尹
雅　出雅
鉄舟
有篁
蘭香
廿三業

入句名録

京

定雅	土卯	篁鳥	六妻	十丈	梅價	蒼虬	雲雄
行六	茂良	寺二	牡蠻	凪也	素頑	月居	東海
蕉星	爲候	布雪	蕙叙	素壹	岱李	元全	
百九	百池	万栖	乙虔	苟水	都友		
素郎	亟雄	仙草	車乃	歌之	仁女		
九華	雀棲	可鳥	百英	文篤	文壹		
素谷	文松	山瀛	雪程	良多			
梅壹	蹊岫	茅身	俄二	繁雪	野何		

大和　上海　馮月　稻葉　澄無　角一　雲鬱

樣月　河内　来紀　古光

和泉　右稲　猿葉　陶庵　蕉麻

大坂　丰古　馬市　尺艾　一族庵　万和

奇渕　三津人　屋鳥　公路　貞甚　井眉

星溝　笠舟　紙杖　芳舟　長舟　奇濤

杜舟　和来　文頃　友無　瑞雪　春雀

蜂友　魯隠　思珊　米麦　鷲雪　鈎翁

月江　春山　子諸　呂調　万寸　白鴎

自来　弗孫　里風　竹吾　壁外　雪色尼

長穂　卧坐　其月　笠下　五湖　浪甫

素虫　米丸　蕎蓬　魚服　葵嵩　[illegible]女

[illegible]女　其餘　三史　葵々　松舟　[illegible]

河舟　三美　巣居　如石　静水　万寿友

一走　槌之　其境　乗成　九鉄　其別

摸津　一茶　桐栖　要巣　素長　松月

九象　寝路　汝笑　十光　礒々　芝蒙

呉来　根渥　古鏡　瓜坊　呉光　浜春

一有　呉乃　金花　一手　紫金　退歩

菓漂　太乙　千露　青松　茶周　千万人

笑外 凌雲 百叙 寒〻 如麻 對鴉
柔丸 伊賀 芳蘇 士得 猪来
伊勢 佳堂 寉鳴 聖渡 爲娶 宗吉
未白 孤墻 南丘 井里
尾張 士朗 羅城 岳恪 岱青 林有
梅間 不情 木天 常梅 方明 松兄
逸人 呂川 鶴亭 大巣 杜堂 平亦
黄山 麻聖 兎迎 立汀 綺英 沐鴉
月底 賈矢 蝶雙 孟竟 斌丈 龜主
参河 秋拳 卓池 木芳

遠江 淵古 菊庭 甲斐 二切里
有賢 嵐外 浸〻 蛮行 聖雪
伊豆 青覺 相模 葛三 維喙 方得
江戸 春蝶 巣北 完来 成美 三千度
心北 常笠 太節 寒松 蕉雨 護梅
孫浮 久藏 羽湖 孤山 車雨 梅支
季乃 丸朴 碩亦 芳岡 蒙外 一河
南井 栗静 菊塢 京雄 玉光 [illegible]
芝山 梅鴈 輕舟 露樟 蓍蕤 長成
武藏 甫滴 函村 常行

安房	板長	素共		上野	土虬
芳丸	素柳		下総	恒丸	素月
車末	小尼	五雄	眼舟	推平	李嶺
桂丸	廣凌		常陸	松江	観外
李尺	知喜	乙人	雪樵	有美	化迪
茶香	由々		近江	破蓮	五来
千穀	宇洋	古猿	蕙布	米友	宋舟
蛇雪	亜溪	志う女	芍苔	英丸	士明
波帆	和月	正雄	宇摩淳	芳々	羽東
可笑	仙李	夾雄	虚白	素律	

飛川	方甫	于岩	孤辞	文老	青樟
乙窪	無業	友甫	探茅	廣居	季鹿
美濃	楚雀	巴圭		飛弾	備史
信濃	素檗	素伯	何軒	茅丸	松宇
奇峰	鶴光	一茶	茶人		
陸奥	乙二	巣居	雄渕	日人	土由
百兆	馬年	夢南	素口	平角	如鬢
冥々	芝城		出羽	長翁	峯梅
可貞	龜年	玉々	里川	布庫	茅舐
東車		若狭	幾ク	夢雄	芳雨

雲居
加賀 眉山 麻古 耳谷 千崖 舍涼
周泰 周泰 年端 黄年 楚実 羽黄
梅底 白二 能登 岸芷 吹氣
越中 奥心 嵐山 鳶翁 文憲
越後 石海 左登 姐浪 西陵
丹波 世揚 武陵 桂朗 雪巻 車丸
文周 冬来 丹後 万籟 巍石
柳案 馬良 馬来 但馬 岸轄
竺仙 尚古 月波 風分

因幡 大婁 兌籟 飄久
伯耆 茶子 学壽 出雲 扇風
一巻 起羊 石見 秋里
隠岐 之水 美作 櫛蹊
播磨 玉房 記蝶 狩夏 文口 市胡
雲明 奈律 葵坐 四実 千丈 亀仙
泥中 五芽 呉山 備中 古音 葉長
雪和 備前 幽雅
備後 義六 岱西 芝風
安藝 篤老 雪堪 梅仙 稲雨 綾麦

圭多 双虬 甘古 蕋史 臨宅 古口
子尹 西坡 樹眉
長門 羅風 義友 月丸
淡路 吉岐 李長 笠山 市丸
小豆嶋 無相 阿波 古寨 州着
鮮里 峰雄 子沔 芋史
讃岐 茂桂 宗德 伊豫 樗堂
其梅 青池 土佐 素梅
筑前 一萍 梅尤 斗丈 瓢風 乙丑
樹羅 蓂多 筑後 多笠 文角

保嵐 其程 車月 鐵舟 其成
豊前 其嵐 豊後 葵亭 鈴亭
月行 肥前 祥禾 兼也 鼓風
出嘯 五英 出嘯 其映 天外 季明
大嶋 文塘 方岳 梅路 汲川
肥後 砂壺 峰丸 一袁 三考 方丸
日向 出彦 升堂 吟路 月雄
薩广 青梁 多里 壹岐 三千雄
長成

詩話 士朗七部集 赤編 全二冊

草まくら 橘日記 菴大集 松 岸

ふくゝ雨日記 三日月集 菁合集

詩話 活行七部集 全二冊

新性合 雪まり 鮎汲 山庵 飄

兼道行 出月集 月天記 貞和斧の柄

附録今世宗匠三十六人秀句集

文政七年甲申八月發兌

浪速書房

塩屋 季助

塩屋 忠兵衛

河内屋 茂兵衛